

目次

里地里山保全再生モデル事業	01
・ 里地里山とは	
・ 里地里山保全再生モデル事業	
地域戦略の検討経緯	02
・ 里地里山地域戦略の策定	
・ 懇談会構成団体	
地域戦略[秦野地域の状況・現状・背景]	03
・ 里地里山保全の背景（秦野市の特性）	
・ 秦野の地域特性 1 地下水と市民のかかわり	04
・ 秦野の地域特性 2 丹沢の自然・保全	05
・ 秦野の地域特性 3 農業都市全	07
地域戦略[基本方針]	08
・ 目標と基本方針	
地域戦略[実施と点検、フォローアップ]	09
・ 地域戦略の実施	
・ 点検とフォローアップ	
地域戦略[登録・研修・情報発信]	10
・ 目的	
・ 登録制度	
・ 研修制度	11
・ 情報発信	12
地域戦略[全体図]	13
地域戦略[地区別図 北、西地区、東地区]	14
地域戦略[地区別図 渋沢地区、上地区]	15
地域戦略[予定表]	16

【地域戦略 個別表】

・ No. 01 全体	ボランティア制度（研修・登録）	19
・ No. 02 全体	フィールドリーダー制度（研修・登録）	19
・ No. 03 全体	活動フィールド制度	20
・ No. 04 全体	情報発信	20
・ No. 05 全体	荒廃農地の解消と活用	21
・ No. 06 全体	バイオマス（生ゴミ堆肥化、活用）	21
・ No. 07 全体	推進体制の構築－推進連絡協議会の設置－	22
・ No. 08 全体	里山林整備指針策定	22
・ No. 09 全体	水源の保全	23
・ No. 10 全体	谷戸の保全	23
・ No. 11 北・西	ヤマビル・獣害対策としての里山整備	24
・ No. 12 北・西	バイオマスの検討（落ち葉の堆肥化）	24
・ No. 13 北・西	くずは青少年野外センター活用事業	25
・ No. 14 北・西	里山ふれあいセンター活用事業	25
・ No. 15 東	里山支援モデル事業による里山づくり	26
・ No. 16 東	集落周辺の藪の整備（獣害対策、荒廃農地対策）	26
・ No. 17 東	蓑毛自然観察の森活用事業	27
・ No. 18 渋沢	二次林の多様な整備モデルづくり	27
・ No. 19 渋沢	散策道の整備と周辺整備の検討	28
・ No. 20 渋沢	小学校の里地里山環境学習の推進	28
・ No. 21 上	水田・湿地環境の再生（生き物の里の管理）	29
・ No. 22 上	四十八瀬川周辺の水田活用	29
・ No. 23 上	竹林の整備と保全の仕組みづくり	30
・ No. 24 上	獣害対策としての里山整備	30

平成19年2月 一部改訂

・ 地域戦略[全体図]改訂版	32
・ 地域戦略[予定表]改訂版	33

里地里山保全再生モデル事業

里地里山とは

- ・都市地域と奥山地域との間に位置し、農林業等の様々な人間の働きかけを通じて環境が形成されてきた地域。
- ・雑木林、水田や畑、ため池、草原といった身近な自然に恵まれ、日本のふるさとの原風景を思わせるような地域。
- ・国土の約4割程度（1600万ha）を占め、メダカ等の希少種や、トンボ、カエル、カタクリなど様々な生物を育む、生物多様性保全上重要な地域。全国の希少種集中分布地域の5割以上が、里地里山に該当。
- ・身近な自然とのふれあいの場、自然環境教育のフィールド。
- ・人間が手を加えて管理することで、特有の環境が形成され、維持されてきた地域。

里地里山の危機

- ・近年、雑木林（二次林）を薪炭林などに利用する機会がなくなり、農山村では過疎化、高齢化による管理放棄、都市近郊では、開発等の土地利用転換が急激に進み、里地里山の喪失、質の低下が進む。

新・生物多様性国家戦略

こうした状況を受け、「新・生物多様性国家戦略」（平成14年3月策定）では、生物多様性を脅かす3つの危機の一つに「里地里山の危機」が位置づけられ、重点施策の一つとして、「里地里山の保全と持続可能な利用」が掲げられる。

里地里山保全再生モデル事業

- ・環境省は、「新・生物多様性国家戦略」を踏まえ、平成16年度から、里地里山保全再生モデル事業を実施。
- ・全国の里地里山の代表的なタイプごとに、行政、専門家、住民、保全活動団体などが参加するモデル事業を実施し、里地里山の保全・再生に取り組むための実践的な手法や体制、里地里山の普及啓発・環境学習活動等のあり方について、具体的な検討を進めるもの。
- ・これらのモデル的な取り組みを全国に発信することにより、全国各地の様々な主体による里地里山保全活動を促進する予定。

モデル事業実施地域

モデル事業実施地域は、植生変化が進行しやすく、里地里山管理の緊急性の高い4つのブロックコナラ林（東日本）ブロック、コナラ林（西日本）ブロック、アカマツ林ブロック、シイカシ萌芽林ブロックから、各ブロックを特徴付ける生態特性、社会特性（立地特性など）や、里地里山保全活動団体の実態等を踏まえ、1地域ずつ、計4地域を選定。

- ・神奈川県西部地域（秦野市）
- ・京都北部・福井地域（宮津市、綾部市、越前市等）
- ・兵庫南部地域（三田市等）
- ・熊本南部地域（氷川町）



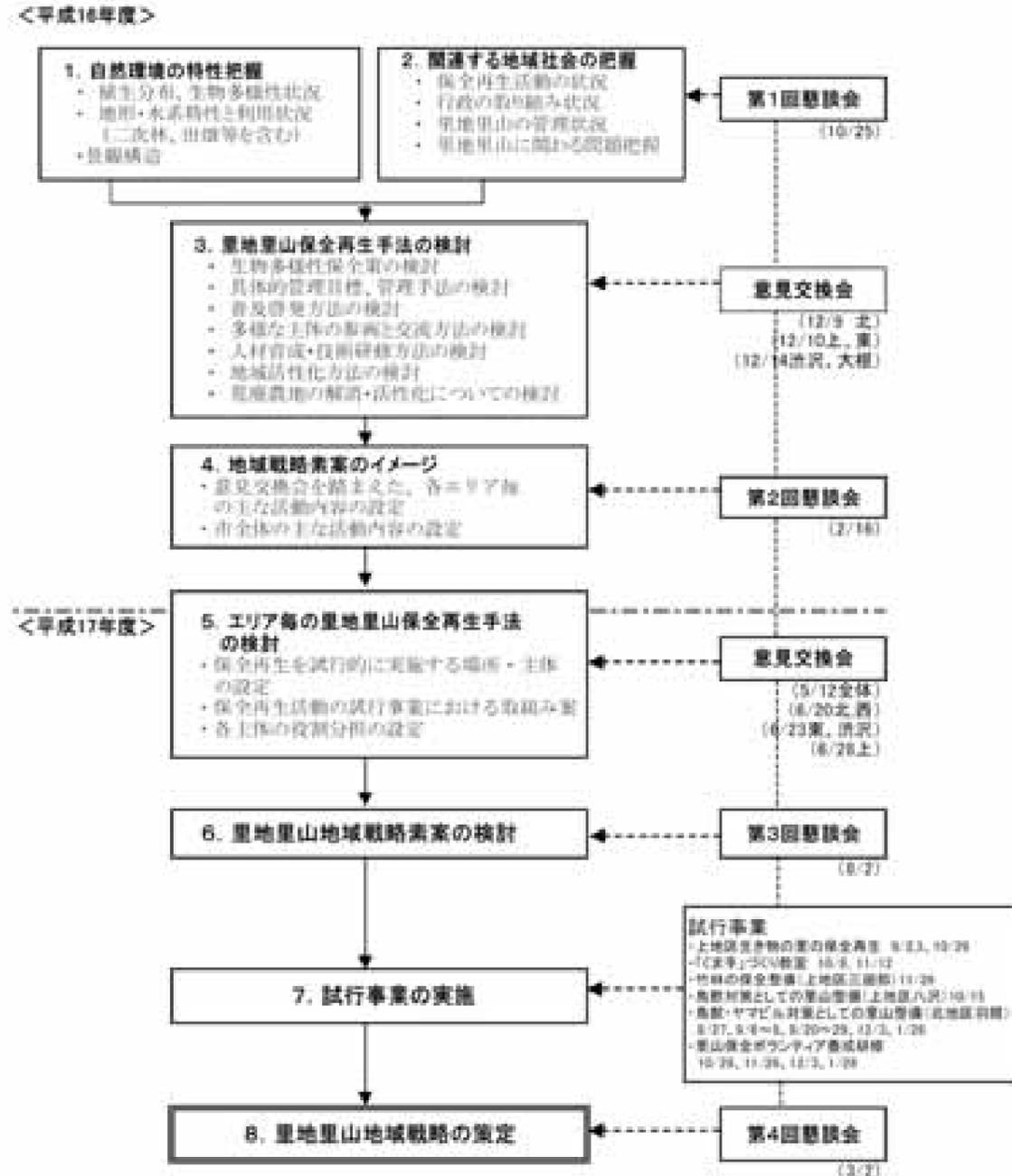
管理の緊急性の高い4ブロックの生態特性・社会特性等

ブロック名	ブロックの範囲	ブロックの生態特性と管理の課題	ブロックの社会特性	モデル事業実施地域
①コナラ林(東日本)ブロック	関東、東北、東部等	・都市近郊での二次林(雑木林)が特徴的で、放置による植生変化、タケ侵入が緊急の課題。	・特に関東では都市近郊に残された里地里山で、多くの保全活動団体が活躍。	神奈川県西部地域
②コナラ林(西日本)ブロック	北陸、山陰等	・農地と二次林の混在が特徴的で、その放置が課題。農地等に依存するシイカシ等が多く分布。	・過疎化が進んでいる奥山に近い里地里山が多い。	京都北部・福井地域
③アカマツ林ブロック	瀬戸内、近畿等	・都市近郊のため地が特徴的で、トンボ類や多くの希少種が生息。タケれに対応した管理が課題。	・比較的都市に近い里地里山が多く、開発等土地利用転換が進行。	兵庫南部地域
④シイカシ萌芽林ブロック	九州、四国南部等	・温暖な気候のため、二次林に侵入する竹林の管理が課題。	・都市近年から奥山まで多様な立地特性の里地里山が存在。	熊本南部地域

地域戦略の検討経緯

里地里山地域戦略の策定

神奈川県秦野地域の策定に当たっては、保全活動団体、地元住民の団体、農林業関係者、秦野市、神奈川県、国の関係省庁（環境省、農林水産省、国土交通省）専門家等で構成する懇談会を設置し、対象地域の里地里山の現況、課題、具体的な事業案等について、検討を行いました。また、秦野市を4つの地区に分け、地区別意見交換会を開催して、住民の意見を聴取しました。さらに、ボランティアの研修や情報発信等、いくつかの事業については試行活動として取り組み、本格的な実施に向けて、課題を把握しました。



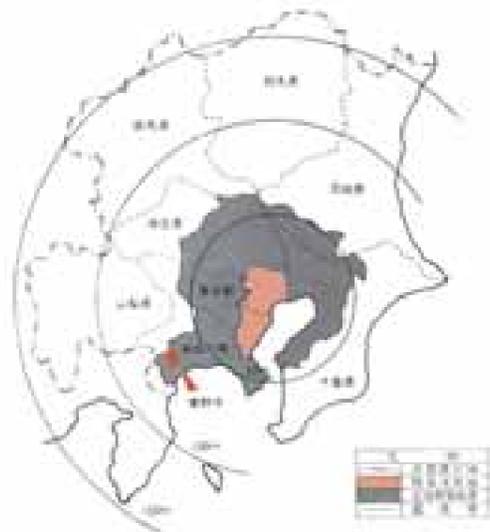
懇談会 構成団体

専門家
東京農業大学客員教授 守山弘
中央大学理学部応用科学科講師 長瀬和雄
地域活動団体
まほろば里山林を育む会
NPO法人国際援助団体アイウエオサークル
NPO法人自然塾丹沢ドン会
荒廃農地解消市民の会
沢沢ふれあいの里管理運営協議会（沢沢）
秦野野鳥の会
西湘地域連合（照葉樹の森づくり協力者）
まちづくり委員会（4つの地区から）
東地区安心してすめるまちづくり運動実施委員会
北地区みんなで住みよいふるさとづくり運動推進委員会
西地区住みよい町づくり運動推進委員会
上地区みんなで住みよいまちづくり運動推進委員会
農林業関係者
秦野市農業協同組合
秦野市森林組合
秦野市農業委員会
秦野市役所
環境農政部
環境農政部環境保全課
環境農政部環境衛生課
環境農政部農産課
都市経済部公園みどり課
秦野市教育委員会 教育総務部 教育研究所
秦野市教育委員会 生涯学習部 青少年課
（市事務局）
環境農政部森林づくり課
神奈川県関係
環境農政部緑政課
環境農政部農地課
環境農政部森林課
湘南地域県総合センター 農地課、森林課
自然環境保全センター
各省庁
環境省 自然環境局自然環境計画課
環境省 関東地方環境事務所
農林水産省 農村振興局整備部地域整備課
農林水産省 関東農政局整備部農村整備課
林野庁 森林整備部計画課
国土交通省 都市・地域整備局公園緑地課緑地環境推進室
事務局等
国立公園協会
里地ネットワーク

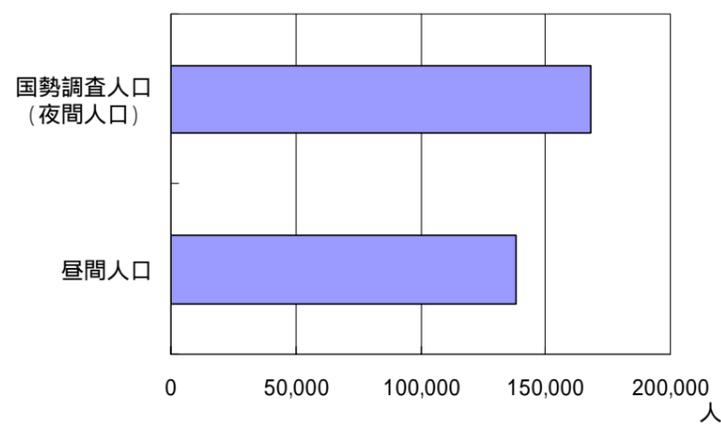
地域戦略 [秦野地域の状況・現状・背景]

里地里山保全の背景（秦野市の特性）

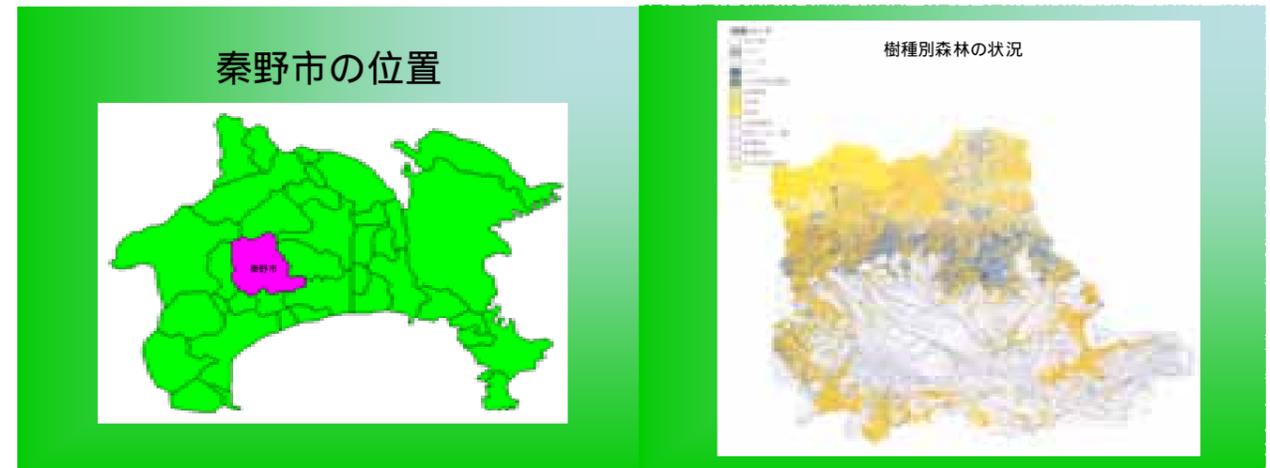
- ・昭和 30 年市制施行
- ・当時は、葉タバコ栽培に代表される人口約 5 万人の農業中心の町
- ・昭和 40 年代に商工業との共存を目指したまちづくりが進められ、現在の秦野市の基盤が形成。
- ・現在、人口 16 万 8,000 人。
 産業別就業人口割合...第 1 次産業 2.4%、第 2 次産業 36.2%、第 3 次産業 59.8%
 昼夜間人口比率 82.1%。
 商店数 1,354、年間販売額 1,800 億円
 工場数 302、従業員数 15,390 人、年間出荷額 5,400 億円
 1 位：電子部品・デバイス製造 1,700 億円
 2 位：情報通信機械製造 1,100 億円
- ・自然環境との共生を目指した神奈川県・県央西部の広域拠点都市であり、丹沢の玄関口
- ・市域面積 103.61km²。約半分の 55km² が森林
 神奈川唯一の盆地
 森林面積 54.84km²。民有林面積 48.06km²。針葉樹 20.99km²。広葉樹 25.31km²
 市街化区域 24.37km²。調整区域 79.2km²
- ・年間約 50 万人の登山客。



首都圏における秦野市の位置



秦野市内の夜間人口と昼間人口 国勢調査(平成 12 年)より



秦野の地域特性 1 地下水と市民とのかかわり

ア 水瓶としての秦野盆地

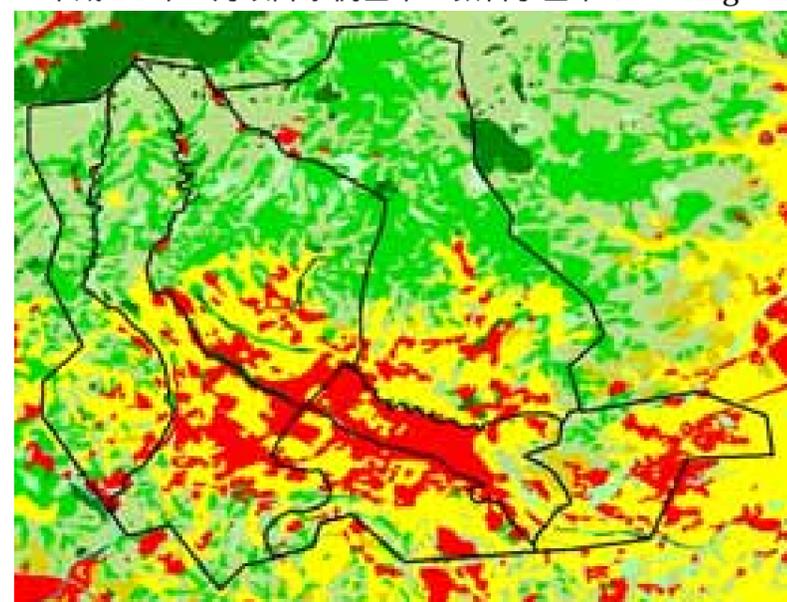
- ・ 秦野盆地は、地下構造が丹沢から流れ込む雨水を溜め込む、天然の水がめ。
推定貯水量は約3億トン、芦ノ湖の1.5倍
- ・ 秦野盆地は、丹沢山地から河川を経て堆積した砂礫層と箱根火山等の火山灰が、基盤上に互層構造を形成

イ 水道事業の発達

- ・ 横浜市、函館市に次ぐ、全国3番目の公営水道
- ・ 水道水源の約7割は地下水
- ・ 現在給水人口：168,069人、日平均給水量：63,700m³ 普及率：99.77%、有収率94.31%

ウ 地下水汚染対策

- ・ 昭和60年「名水100選」選定
- ・ 平成元年、有機塩素系化学物質汚染判明 当初見込みでは、地下水の浄化に50年以上、200億円以上と算定
- ・ 平成6年「地下水汚染の防止及び浄化に関する条例」制定し、個人の飲用井戸を水道に切り替え、事業者の費用で汚染調査、浄化事業を実施 市は人工透析的浄化装置を開発し、地下水を浄化し、還元する手法により定点浄化した結果、期間15年、経費5億円で、平成16年1月には、故事来歴のある弘法の清水の復活宣言
- ・ 平成14年1月以降条例基準・飲料水基準の0.01mg/Lを2年間下回り、安全宣言



秦野市の自然度

水瓶としての秦野盆地



水瓶としての秦野盆地



水道事業の発達



水道事業の発達



地下水汚染対策



回収量17,800kg(ドラム缶59本分)

地下水汚染対策



秦野の地域特性 2 丹沢の自然・保全

- ・湧水の源・丹沢に、自然環境と人間活動のバランス不均衡による様々な課題がある

ア 神奈川県取組

- ・平成5年～9年、自然環境総合調査を実施し、ブナの立ち枯れ、林床植生の退行、シカ個体群の低質化等10項目の問題点の提示と、保全のための制度確立など4項目を提言
- ・平成11年、丹沢大山の生物多様性の保全を目標とする平成13年から5年間の「丹沢大山保全計画」を策定
- ・平成16年度からワークショップの議論を経て、水と生き物と経済の循環の再生、保全、再生の具体的な目標の明確化、市民に開かれた調査、を基本視点に「丹沢大山総合調査」を実施
調査項目は、生き物再生調査、水と土再生調査、地域再生調査、情報整備調査
- ・平成9年から「水源の森林づくり事業」に着手、丹沢山地の水源地域私有林を対象に、水源分収林協定などにより、公的管理を進める

標高300m以上の森林区域、約31.4km²対象。

所有者が自ら行なう森林整備を支援する協力協約。森林所有者に代わって県が行なう水源分収林協定。直接買取契約。

秦野市域の平成16年度末全体契約面積は約300ha

イ 秦野市民による里地里山保全

- ・平成11年、「水源の森林づくり」区域外の里地里山を整備する、「森林づくりマスタープラン」策定
- ・市民参加による森林づくり事業（ボランティアによる里地里山づくり）
ふるさと里山整備事業（平成14～16年 約42ha）
里山ふれあいの森づくり事業（平成11～16年 約15ha）
- ・平成15年、里山の管理状況等実態調査、里山の総面積約14km²中、10km²の管理が不十分
- ・今後、水道事業者からの協力金に加え、平成19年から導入の神奈川県水源環境保全税による支援を期待

丹沢大山総合調査（県）



水源の森林づくり（県）



森林の間伐

市民による里地里山保全



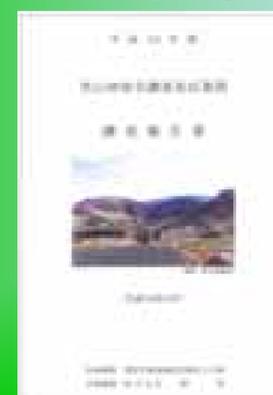
市民による里地里山保全



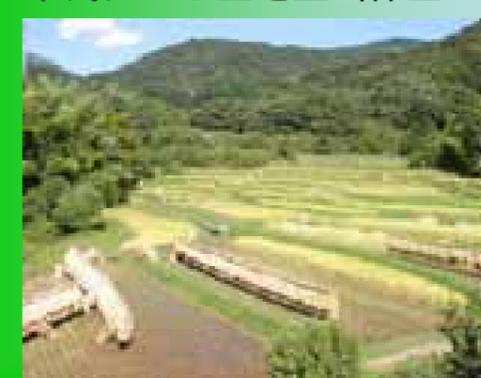
保全活用研修の実施

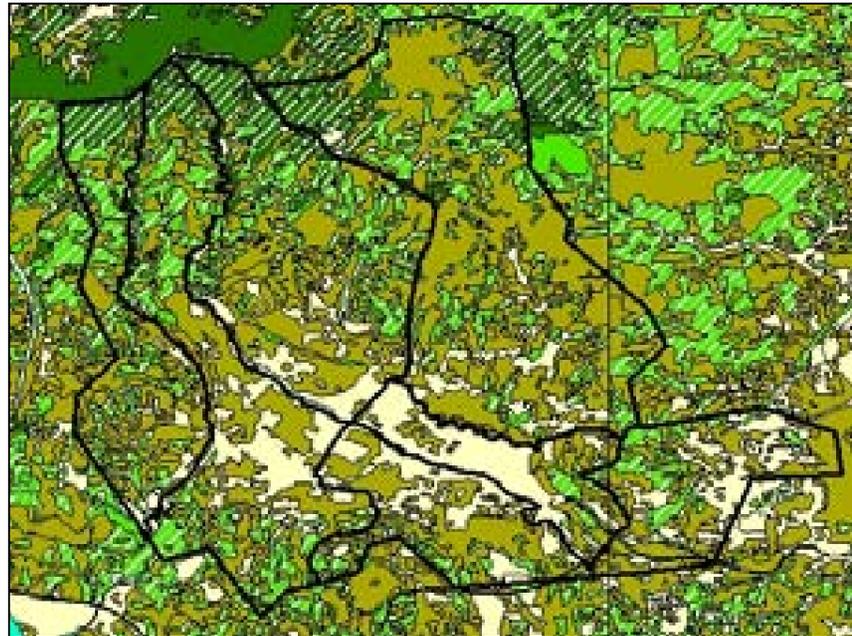
里山ふれあいの森づくり事業

市民による里地里山保全

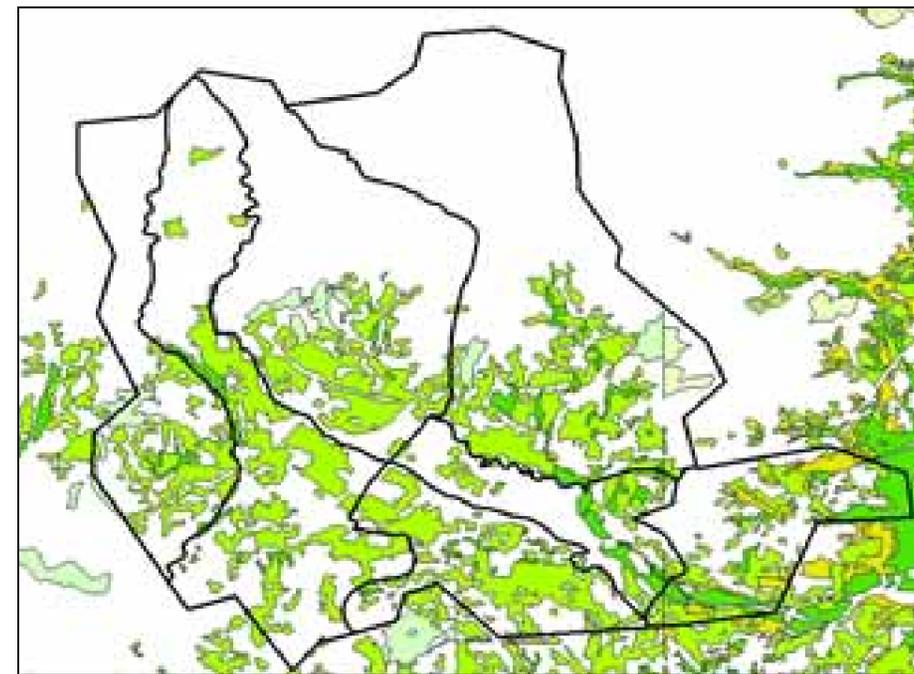


市民による里地里山保全

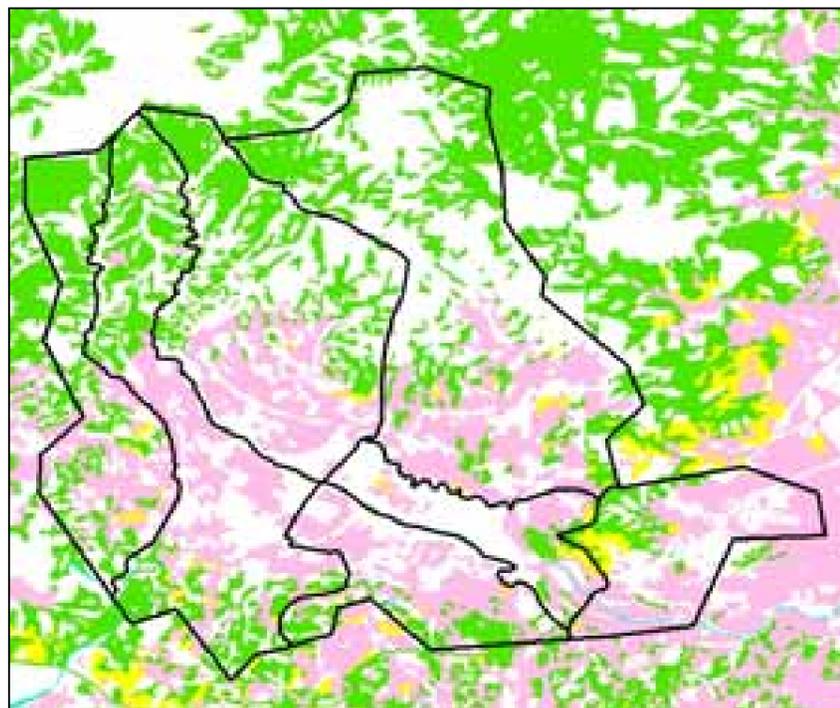




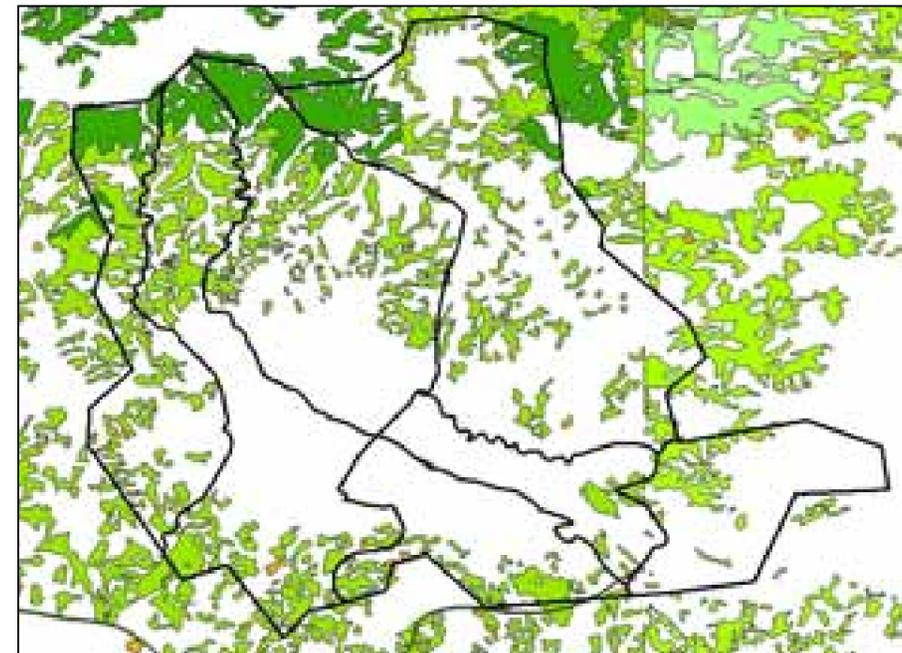
秦野市の植生図



秦野市の植生（農地（水田・畑）のみ）



秦野市植生図（農地・二次林）



秦野市の植生（二次林のみ）